

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

山形県 山形市

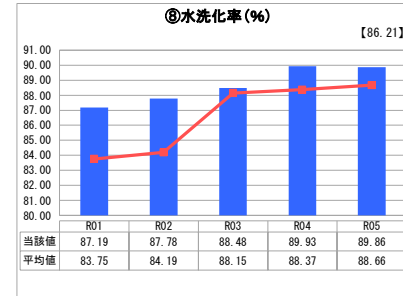
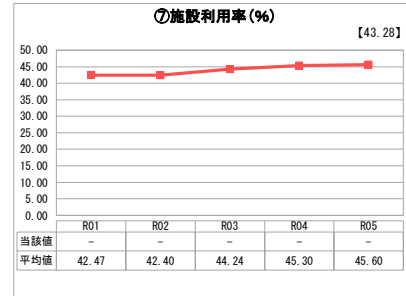
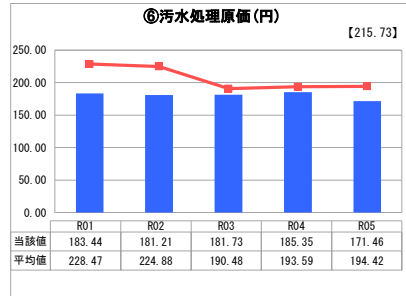
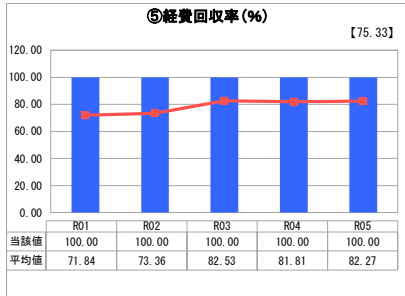
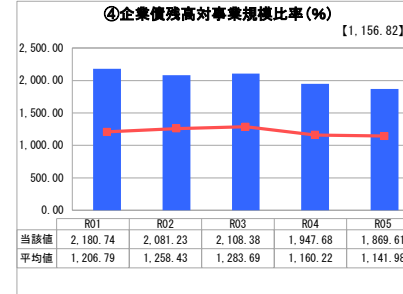
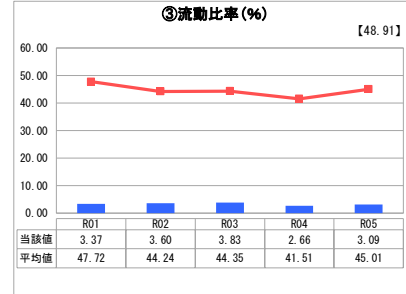
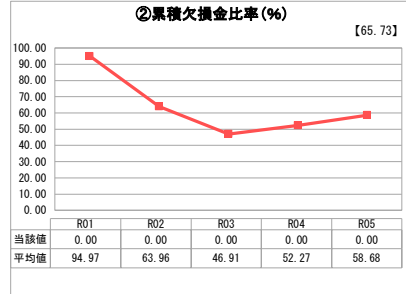
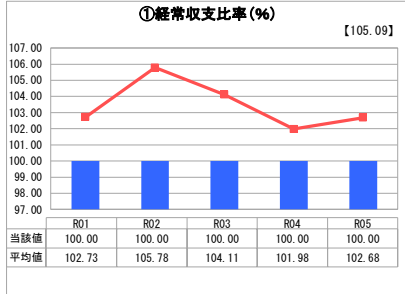
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	12.39	10.74	74.11	3,355

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
238,293	381.30	624.95
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
25,447	7.50	3,392.93

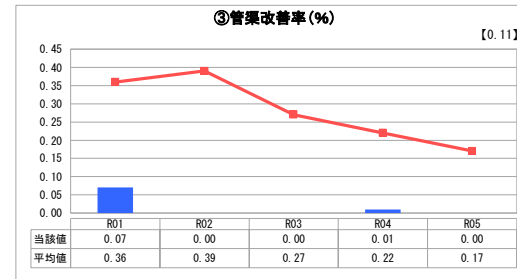
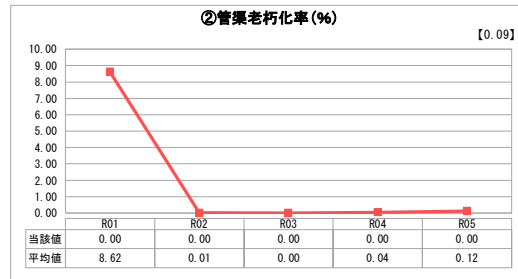
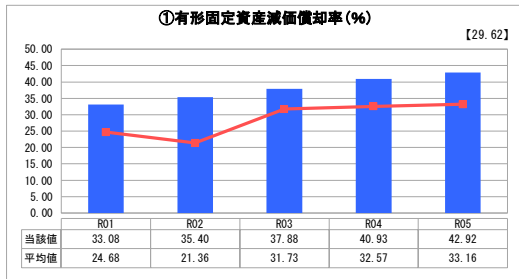
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率については収支均衡となっており、経常費用を下水道使用料や一般会計負担金で賄うことが出来ている。  
 ② 累積欠損比率は、累積した損失がないため0%である。  
 ③ 流動比率については、早い段階で多くの市民の衛生環境を整えるため集中的に汚水管の整備を実施してきたことにより、1年以内に支払うべき企業債償還金が多くなっており、類似団体、全国平均値よりも低くなっている。  
 ④ 企業債残高対事業規模比率についても、企業債未償還残高が多いため、平均値よりも高い数値で推移している。しかし、新たな企業債借入れを償還額以内に抑えているため、比率は減少傾向にある。  
 ⑤ 経費回収率については100%で推移していることから、維持管理費を下水道使用料で賄うことが出来ている。  
 ⑥ 汚水処理原価については平均値よりも低い水準となっている。  
 ⑦ 施設利用率については、独自の処理場を有していないため0%である。  
 ⑧ 水洗化率は、昨年度と比べほぼ横ばいで推移しており、全国平均値や類似団体平均値よりも高くなっている。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は上昇傾向で推移しているものの、法定耐用年数を超過した管渠はないため、②管渠老朽化率が0%となっている。  
 ③ 管渠改善率について、改善を実施した管渠はなかったため0%となっている。

## 全体総括

本市の下水道事業は、令和4年度に汚水管整備が概成となり、短期間で集中的に整備してきた施設の老朽化が課題となる。今後は汚水管の修繕・改築の増加が見込まれるが、収益の増加を見込むことは困難であり、厳しい経営状況になることが予想される。  
 将来にわたって安定的な公共下水道サービスをお客様に提供するために、水洗化率の向上やストックマネジメント計画に基づく効率的かつ計画的な設備投資による費用の平準化等に取り組むとともに、広域化の検討を含め「山形市上下水道事業基本計画NEXTビジョン2023」の施策を着実に実施し、健全経営を維持できるよう努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。